

平成24年5月22日

“I-ILL-BOY Day”

二度と悲しい事故が 起きないことを祈って...

メモリアルストーン「安全と安寧」を誓って

建学の精神について
の認識を体験的に深
め、学園生活の一層
充実を期すことを目標
とする「さつき祭」が
毎年計画実施され、第
一学年の「さつき祭」
は多賀城校舎で行な
れる前夜祭・宿泊研
修、そして次の日早朝
に実施する多賀城校舎
と松島研修センター間
の22・5kmのウォーク
ラリーからなっていま
す。

創立百周年を迎
える平成十七年は、第
十一回の実施でありま
した。
五月二十一日(土)生
徒の皆さんは級友たち
と協力しながらクラ
スの出し物を成功さ
せ、また、仲間意識と
友情を深め、前夜祭を
成功させました。翌日
五月二十二日(日)は午
前三時に元気に起床し
ました。ウォークラリー

はグループ毎に、各
自のペースで「楽しく
歩く」こと、「安全に気
をつけて完歩する」こ
とを主眼としていま
す。特別進学コース、
外国語コース、そして
英進進学コース女子生
徒の三百二十七名の皆
さんが第一陣として多
賀城校舎を午前四時
第二陣の英進進学コー
ス男子二百四十一名が
午前四時十五分にそれ
ぞれが元気に出発して
いきました。第一陣が
学校を出発してまもなく、
午前四時十五分頃、
多賀城市八幡一丁目三
番地内の国道45号線青
信号内の横断歩道を渡
っていた第一陣の生徒
たちは隊列と、左折し
ようとして止まってい
た乗用車に、飲酒・居
眠り運転、信号無視等
などの危険運転の暴走
車が衝突し、生徒たち
も跳ね飛ばされました。
三人死亡、四人重症で
その他多くの生徒たちが
事故現場を目撃し、大
変な衝撃を心に負うこ
ととなりました。

今年度もメモリアル
ストーンを参拝し、献
花することを通して、
生徒の安全を確保し、
悲惨な事故が起ころぬ
ことを願ひ、また三人
御霊が安らかになるこ
とをお祈りするととも
に、三人の命がいかに
重く、そして尊いもの
であるかを学んでいき
たいと思います。生徒
の皆さんが「いのちの
大切さ」を受容し、共
感・共鳴していただく
機会になればと思いま
す。

平成十八年からはウ
ォークラリーに替わり
行事として、「スプリ
ングチャレンジ」を実
施してきましたが、こ
の新しい行事を通し
て、仙台育英学園生の
一員としての自覚(帰
属意識)を高め、団結
と友情(仲間意識)を
育んでくれることを期
待しております。

仙台育英学園の皆さん、おはようござい
ます。私は福島県会津若松市から参りまし
た。岡崎照子と申します。
二年前の今日、五月二十二日にも、この
ようにして、朝の校内放送でお話をさせて
いただきました。三年生の方で覚えていて
下さる方もいらっしゃるかもしれません。
私の娘、愛は、七年前の二〇〇五年八
月、中学三年生の夏休みに交通事故に遭
い、死亡しました。
本日娘は「生命のメッセージ展」のメッ
センジャーとして、再び、仙台育英学園に
まいりました。
今日皆さん先輩が、七年前に交通事
故に遭われた日です。今年も、この日に
「生命のメッセージ展」が開催されますこと
に、大きな期待と希望を寄せております。
昨年の三月十一日、巨大地震、大津波に
より、一瞬にして多くの尊い命が失われま
した。皆さんの中にも、大切な人を亡くさ
れた方が多くいらっしゃると思います。地
震や津波の被害に遭われた方も多くいら
しゃると思います。一年が過ぎ、少しは落
ち着かれたでしょうか。
三月十一日、福島県の相馬郡新地町に住
む、私の友人も津波の犠牲になり、なくな
りました。私の娘の愛をとても可愛がって
くれ、愛の事故後、私を励まし続けて大
切な大切な友人でした。どうして優しい大
切な人はかき連れていかれてしまうのだろ
うかと、虚しさで襲われました。
昨年五月十九日、「生命のメッセージ展」
では、鈴木共子代表はじめ六名が、仙台育
英学園を訪問させていただきました。震災か
ら二ヶ月のまだ地震と津波の爪あとが色
濃く残る中、皆さんの無事を喜び、励まし
の気持ちを送った、赤い手作りハートをプ
レゼントさせていただきました。
命を大切にしたいという同じ思いから、
仙台育英学園の皆さんと「生命のメッセー
ジ展」がこのような繋がりを持つことがで
きました。私たちは心から嬉しく思
っております。

このところ、悲惨な交通事故、交通事
件が続いています。またも、多くの命が一瞬
に奪われました。皆さんの先輩方
も、ある日突然、飲酒運転の暴走車に命を
奪われました。
私の娘も、夏の日、友達と図書館へ向か
い「行って来ます」と出かけたまま、元気
な姿で帰ってくることは二度とありません
でした。どうして、こんなことがあるので
しょうか。
生まれ生きてくれたことを喜び、大切に
育て、それに応えるように、一生懸命生き
ていた娘が、どうしてたった十四歳で死な
なくてはならないのでしょうか。
ん、兄弟、周りの多くの人から愛され、大
切に育てられていたはず。人の命は、
何より重く何にも代えられないはず。
しかし、現実とは違っていることを、娘を
亡くして初めて思い知らされました。命は
あまりにも軽く、その扱いにうちのめされ
るばかりでした。
私たちは、みんな愛されて生まれてきま
した。私たちが誕生するまでにある道のり
は、偶然と奇跡が何度も積み重なり、そし
て、やっとこの世に人間として誕生するの
だそう。ですから、私たちが今ここに
いることも当たり前ではなく、奇跡なので
す。

生きていくことは素晴らしく、生きてい
るだけで価値があることなのです。生きてさ
えれば、命さえあれば何でも出来ませ
す。皆さんの先輩方も、将来にたくさんの夢
を描き、勉強に部活動に、努力していまし
た。その何十年も先まで続く未来を一瞬に
して、絶たれてしまったのです。
私の娘、愛は、人の役に立ちたいとい
う夢を持っていました。将来は、国連やユニ
セフで働いて、苦しんでいる人を助けたい
と考えていました。しかし、その夢を叶え
ることは出来ませんでした。どれほど悔し
く、無念だったでしょう。生きていれば、
やがて結婚もして、子どもも生んだこと
でしょう。命は繋がっていくはずでした。

本日、グローリーホールで皆さんとの対
面を待っていますメッセンジャーは、皆、
ある日突然、理不尽に命を奪われた人たち
です。「生命のメッセージ展」につきまし
ては、一年前に対面して、既にご存知の
方もいらっしゃると思いますが、今回が初
めての方たちが多くいらっしゃると思
います。少し説明をさせていただきますと思
います。

「生命のメッセージ展」とは、犯罪・事
故・いじめ・医療過誤・一気飲ませなどの
結果、理不尽に命を奪われた犠牲者が主役
になっていますアート展です。その主役は
メッセンジャーと呼ばれる等身大の人の形
をした白いパネルです。胸には本人の写真
とともに、訴えたいことや伝えたいこと
が書かれています。足元には生前に履いて
いた靴が置かれています。人型となった犠牲
者たちは「命の重み」「生きていくことの
素晴らしさ」「生きるこの意味」など多く
のことを伝え、感じてもらおうと、メ
ッセンジャーとして再び誕生しました。そ
して、命のことを多くの人に伝え、その思
いが未来に繋がるように、全国を巡り、新し
い命を生きているのです。「生命のメッセ
ージ展」について、少しご理解いただけ
ましょうか。

皆さんは、昨年の震災で、もう既に命の
大切さを誰よりも強く実感していることと
思います。そんな皆さんだからこそ、未来
を絶たれた人たちの声を受け止めていた
けると、思っています。皆さんの感受性豊
かな柔らかい心で、メッセンジャーたちが
伝えようとしている声、皆さんに話してい
たい、それらを受け取ってほしいと思っ
ています。生きたいと願っていたメッセン
ジャー一人一人とゆくり対面していただ
ければと思っています。

本日は、皆さんにお会いすることができ
ました。心からありがとうございます。
メッセンジャーたちも、中学生、高校生の
若い皆さんに、また会えることを喜んで
いるはず。再びこの機会を与えて
いただきましたことに、メッセンジャーの
母として心からお礼申し上げます。本当に
ありがとうございます。それでは、グロー
リーホールでメッセンジャーと共に皆さん
をお待ちしております。



たれ三人の尊い命が奪
われた、あの事故から
七年が経とうとして
おります。学園ではこ
の間、事故の犠牲とな
った三人のご冥福を心
から祈りながら、ご遺
族のご心情に寄り添う
よう努めて参りまし
た。一方、事故で大怪
我をされた生徒の皆さん、
怪我は軽傷でも心
に大きく衝撃を受けて
しまった生徒の皆さん
が元通りの日常生活を
送ることができるよう
注意深く、焦らず、大
事に見守って参りまし
た。そして、彼らが十
分な時間と忍耐力を持
つて後遺症なき回復に
むけて歩んでいくこと
を支えてきました。

本学園は筆舌に尽し
ない(筆舌で表わすこ
と)が困難な、重大かつ
深刻な事故をいつまで
も風化させることがな
いようにするため、五
月二十二日を「I-ILL-
BOY」と制定し、教職
員とともに安全対策に
関する研修と実践を通
じて、三人の死を永久
(とわ)に忘れず、事
故を風化させることが
ないよう、二度とこの
ような事故が起ころぬ
よう誓いました。さら
に、三人の命の重さ
と思いをもち続け、
「安全と安寧」を誓う
「メモリアルストーン」
を多賀城校舎のこの地
(一隅)に設置しまし
た。

今年度もメモリアル
ストーンを参拝し、献
花することを通して、
生徒の安全を確保し、
悲惨な事故が起ころぬ
ことを願ひ、また三人
御霊が安らかになるこ
とをお祈りするととも
に、三人の命がいかに
重く、そして尊いもの
であるかを学んでいき
たいと思います。生徒
の皆さんが「いのちの
大切さ」を受容し、共
感・共鳴していただく
機会になればと思いま
す。

仙台育英学園の皆さん、おはようござい
ます。私は福島県会津若松市から参りまし
た。岡崎照子と申します。
二年前の今日、五月二十二日にも、この
ようにして、朝の校内放送でお話をさせて
いただきました。三年生の方で覚えていて
下さる方もいらっしゃるかもしれません。
私の娘、愛は、七年前の二〇〇五年八
月、中学三年生の夏休みに交通事故に遭
い、死亡しました。
本日娘は「生命のメッセージ展」のメッ
センジャーとして、再び、仙台育英学園に
まいりました。
今日皆さん先輩が、七年前に交通事
故に遭われた日です。今年も、この日に
「生命のメッセージ展」が開催されますこと
に、大きな期待と希望を寄せております。
昨年の三月十一日、巨大地震、大津波に
より、一瞬にして多くの尊い命が失われま
した。皆さんの中にも、大切な人を亡くさ
れた方が多くいらっしゃると思います。地
震や津波の被害に遭われた方も多くいら
しゃると思います。一年が過ぎ、少しは落
ち着かれたでしょうか。
三月十一日、福島県の相馬郡新地町に住
む、私の友人も津波の犠牲になり、なくな
りました。私の娘の愛をとても可愛がって
くれ、愛の事故後、私を励まし続けて大
切な大切な友人でした。どうして優しい大
切な人はかき連れていかれてしまうのだろ
うかと、虚しさで襲われました。
昨年五月十九日、「生命のメッセージ展」
では、鈴木共子代表はじめ六名が、仙台育
英学園を訪問させていただきました。震災か
ら二ヶ月のまだ地震と津波の爪あとが色
濃く残る中、皆さんの無事を喜び、励まし
の気持ちを送った、赤い手作りハートをプ
レゼントさせていただきました。
命を大切にしたいという同じ思いから、
仙台育英学園の皆さんと「生命のメッセー
ジ展」がこのような繋がりを持つことがで
きました。私たちは心から嬉しく思
っております。

このところ、悲惨な交通事故、交通事
件が続いています。またも、多くの命が一瞬
に奪われました。皆さんの先輩方
も、ある日突然、飲酒運転の暴走車に命を
奪われました。
私の娘も、夏の日、友達と図書館へ向か
い「行って来ます」と出かけたまま、元気
な姿で帰ってくることは二度とありません
でした。どうして、こんなことがあるので
しょうか。
生まれ生きてくれたことを喜び、大切に
育て、それに応えるように、一生懸命生き
ていた娘が、どうしてたった十四歳で死な
なくてはならないのでしょうか。
ん、兄弟、周りの多くの人から愛され、大
切に育てられていたはず。人の命は、
何より重く何にも代えられないはず。
しかし、現実とは違っていることを、娘を
亡くして初めて思い知らされました。命は
あまりにも軽く、その扱いにうちのめされ
るばかりでした。
私たちは、みんな愛されて生まれてきま
した。私たちが誕生するまでにある道のり
は、偶然と奇跡が何度も積み重なり、そし
て、やっとこの世に人間として誕生するの
だそう。ですから、私たちが今ここに
いることも当たり前ではなく、奇跡なので
す。

生きていくことは素晴らしく、生きてい
るだけで価値があることなのです。生きてさ
えれば、命さえあれば何でも出来ませ
す。皆さんの先輩方も、将来にたくさんの夢
を描き、勉強に部活動に、努力していまし
た。その何十年も先まで続く未来を一瞬に
して、絶たれてしまったのです。
私の娘、愛は、人の役に立ちたいとい
う夢を持っていました。将来は、国連やユニ
セフで働いて、苦しんでいる人を助けたい
と考えていました。しかし、その夢を叶え
ることは出来ませんでした。どれほど悔し
く、無念だったでしょう。生きていれば、
やがて結婚もして、子どもも生んだこと
でしょう。命は繋がっていくはずでした。

本日、グローリーホールで皆さんとの対
面を待っていますメッセンジャーは、皆、
ある日突然、理不尽に命を奪われた人たち
です。「生命のメッセージ展」につきまし
ては、一年前に対面して、既にご存知の
方もいらっしゃると思いますが、今回が初
めての方たちが多くいらっしゃると思
います。少し説明をさせていただきますと思
います。

「生命のメッセージ展」とは、犯罪・事
故・いじめ・医療過誤・一気飲ませなどの
結果、理不尽に命を奪われた犠牲者が主役
になっていますアート展です。その主役は
メッセンジャーと呼ばれる等身大の人の形
をした白いパネルです。胸には本人の写真
とともに、訴えたいことや伝えたいこと
が書かれています。足元には生前に履いて
いた靴が置かれています。人型となった犠牲
者たちは「命の重み」「生きていくことの
素晴らしさ」「生きるこの意味」など多く
のことを伝え、感じてもらおうと、メ
ッセンジャーとして再び誕生しました。そ
して、命のことを多くの人に伝え、その思
いが未来に繋がるように、全国を巡り、新し
い命を生きているのです。「生命のメッセ
ージ展」について、少しご理解いただけ
ましょうか。

皆さんは、昨年の震災で、もう既に命の
大切さを誰よりも強く実感していることと
思います。そんな皆さんだからこそ、未来
を絶たれた人たちの声を受け止めていた
けると、思っています。皆さんの感受性豊
かな柔らかい心で、メッセンジャーたちが
伝えようとしている声、皆さんに話してい
たい、それらを受け取ってほしいと思っ
ています。生きたいと願っていたメッセン
ジャー一人一人とゆくり対面していただ
ければと思っています。

本日は、皆さんにお会いすることができ
ました。心からありがとうございます。
メッセンジャーたちも、中学生、高校生の
若い皆さんに、また会えることを喜んで
いるはず。再びこの機会を与えて
いただきましたことに、メッセンジャーの
母として心からお礼申し上げます。本当に
ありがとうございます。それでは、グロー
リーホールでメッセンジャーと共に皆さん
をお待ちしております。



飲酒運転根絶県民大会



「生命のメッセージ展」
福島県会津若松市在住
岡崎照子

大学への進学者数

- 東大への合格者：秀光1の計1名
○ 医学科への実入学者：秀光9・仙台育英学園高校2の計11名
○ 東北大への合格者：秀光5・高校8の計13名

平成24年度 大学合格者(一般・推薦・AO入試)

2012/6/29現在

Table with columns for university names, acceptance status, and counts. Includes sections for '秀光中等教育学校' and '仙台育英学園高等学校'.

同窓生 各位

平成24年8月1日

仙台育英学園同窓会
会長 小坂 信雄
秀光中等教育学校
仙台育英学園高等学校
校長 加藤 雄彦

東日本大震災復興事業に関する寄付金のお知らせ
お願い

盛夏の候、皆様にはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。
宮城野校舎及び多賀城校舎の復旧・復興につきましては、皆様からの温かいご支援とご協力により予定通り順調に進められております。

新南冥(延べ床面積約6,700㎡)、新栄光(延べ床面積約5,000㎡)
新北辰(新体育館含む)(延べ床面積約5,800㎡)、
エントランス等を含めると約18,000㎡を着工中です。
竣工時期は、平成25年3月です。

さて、既にご案内の通り本学園の復旧・復興に係る負担額は総額55億円にも上り、その財源は国や県からの補助金、日本私立学校振興・共済事業団及び市中銀行からの借入れ、そして皆様方からの寄付金等で成り立っております。

同窓生の皆様には昨年ご寄付のお願いお申し上げましたところ、464名の方々から総額7,344,900円という多額のご寄付をいただきありがとうございます。
(ご芳名は会報に掲載)

つきましては、出費多端な折大変恐縮に存じますが、未だご寄付いただいていない方には是非、ご寄付賜りますようお願い申し上げます。
(同封の払込取扱票にて)

なお、このご寄付のお願いは同窓生全会員に送付しておりますので、昨年度ご寄付いただいた同窓生各位にも送付されることをお許しください、ご了承の程お願い申し上げます。

平成23年度
就職内定企業一覧(内定順)

Table listing companies where graduates have secured employment, including Mフレックス, 株式会社タンガロイ, etc.

Table showing employment statistics: 1. 就職内定率は次の通りです。 2. 就職内定者内訳は次の通りです。

同窓会総会のご案内
期日：平成二十四年八月二十五日(土)
時間：午後五時より総会
午後六時より懇親会
場所：パレスへいあん
会費：5,000円

★事務局からのお知らせ★
昨今より同窓生諸兄姉の家庭へ、「同窓会」の者ですが、名簿作成のため住所、勤務先を教えてください」との電話が、特に若い同窓生に数多くあるようです。

支部だより
東京支部
第三十三回総会
とき：24年11月25日(日)
午後12時より

岩沼支部
第二十二回総会
とき：24年11月10日(土)
午後3時より
連絡先：竹駒神社・参集殿
会費：四、〇〇〇円
電話：(〇二二三) 二二一四三一九



